

箆籬

按漏斗今以銅作之、插樽口盛酒器也、名之上戶者能吞也、又盛穀於箆漏斗用竹作之、

〔倭名類聚抄十六器〕箆籬 辨色立成云、箆籬唐韻箆音則致反、去聲之輕籬音、麥索煮籬也、以竹編爲之、

〔箋注倭名類聚抄四器〕按此所云无岐謂麩條須久比抄取之義、无岐須久比、今俗蕎麥麩揚坐流蓋

此類、中 箆籬出唐書安祿山傳及廣韻但無解、按齊民要術切麵粥麩麵粥法云、湯煮箆籬漉出、

〔伊呂波字類抄元雜物〕箆籬 ムキスクロ

〔下學集下器財〕箆籬味漉也

〔運歩色葉集伊〕箆籬

〔書言字考節用集七器財〕飯籬本草以竹爲之、箆籬、筍箕、

〔物類稱呼四器用〕筍いがき 畿内及奥州にて、いかき、江戸にて、ざる、西國及出雲、石見、加賀、越前、越後

にて、せうけと云、武州岩附邊にて、せうぎ、安藝にて、またま、丹波、丹後にて、いどこ、遠江にて、ゆかけ、

越後、信濃、上野にて、ぼてといふ、又江戸にて、かめのこざるを、畿内にて、どんがめいがき、藝州にて、

どろがめしたみ、下野にて、ひらざると云、又江戸にて、御前籠といふ物を、備前にて、ままふぐ、又小

き物をこしをりと云、又關西にて、めかごと云を、東國にて、めかいと云、或ふごびく、又こめあげざ

る、又其大なるを、かたまきと云、其外品類盡しがたし、今爰に略す、

〔東雅十一器用〕箆籬中 下學集に、箆籬は味噌漉なりと注し、旁にサウリイカキと注せり、サウリと

は其字の音を呼びしにて、又イカキともいひしと見えたり、今の如きは、是等の類すべてこれを

ザルといふ、ザルとはサウリといひし語の轉じ訛れるなり、

〔倭訓栞中編二〕いがき 飯籬をいふ、いひかごの轉せる成べし、よて淘羅をもいふめり、伊勢にて

はざるといふ、

〔倭訓栞前編十〕ざる いがきをいふは、箆籬の音也といへり、和名鈔に、むぎすくひと訓じ、下學集